申第42号「東海道新幹線防音壁端部プラスチック製パネル落下に関する申し入れ」

申第43号「京都駅ホームにおける配管金具の落下に関する申し入れ」

申第44号「橋りょう下に落下させた線路部品の調査結果に関する申し入れ」

に対する窓口説明

労使協議開催拒否は安全軽視のあらわれだ！

6月25日、『申第42号「東海道新幹線防音壁端部プラスチック製パネル落下に関する申し入れ」』『申第43号「京都駅ホームにおける配管金具の落下に関する申し入れ」』『申第44号「橋りょう下に落下させた線路部品の調査結果に関する申し入れ」』の取り扱いについて会社窓口から説明がありました。

『申第42号』は、5月25日に三河安城～名古屋間で保守作業中に防音壁端部のプラスチック製パネルが落下した事故について、『申第43号』は、5月26日に東海道新幹線京都駅ホームにてホーム上屋の電気配管の取付金具が約5m下のホームに落下した事故について、『申第44号』は、東海道線天竜川橋りょう下の中州で線路部品と思われる部品が発見されたことの調査について、いずれも詳細と原因、具体的対策について申し入れていたものです。

しかし会社は、以上の申し入れについて「地方での話であり、本社・本部で議論する内容ではない」と説明し、労使協議の開催を拒否しました。

本部はそれぞれの申し入れについて、労使協議の開催を求めましたが、会社はいずれも開催しないとして不誠実な対応をとったため対立を確認しました。

『申第42号』東海道新幹線防音壁端部プラスチック製パネル落下に関する申し入れ

会社は、ホームページにおいて5月25日「保守作業中における防音壁端部のプラスチック製パネルの落下について」と題して発表を行った。この事故に関してはマスコミも報道している。

ホームページの記載及びマスコミ報道に基づき、この事故に関して以下の通り申し入れるので早急に労使協議を行うこと。

記

1. この事故の詳細と原因を具体的に明らかにすること。
2. 会社が原因としている「作業員が電柱から降りる際、周囲の確認が足りず、防音壁の端部パネルに足が接触したため」について「周囲の確認が足りなかった」「端部パネルに足が接触」について、具体的に明らかにすること。
3. 会社は原因として「作業員が電柱から降りる際、周囲の確認が足りず、防音壁端部の端部パネルに足が接触したため」としている。約1.7kgのパネルが15cmも落下すれば、状況によっては人命に対して相当な障害が発生すると認識する。会社の見解を明らかにすること。
4. 会社は、防音壁端部の端部パネルが場合によっては落下する可能性があることを予測していたのか、明らかにすること。
5. 「作業員」に怪我はなかったのか、明らかにすること。
6. 「作業員」とは社員なのか関連会社等の社員なのか、明らかにすること。
7. 「作業員」の経験年数を明らかにすること。
8. 「付近を通行された方が1名おり…」と発表しているが、その方に怪我はなかったのか明らかにすること。
9. 過去において同種事故があったのか、明らかにすること。
10. 原因に基づく同種事故の具体的防止策を明らかにすること。
11. このような事故が発生した場合は速やかに労働組合に説明し、協議の場を持つこと。

以上

『申第43号』京都駅ホームにおける配管金具の落下に関する申し入れ

会社は5月26日、ホームページにおいて「京都駅ホームにおける配管金具の落下について」と題して発表を行った。発表によれば、この事故は「東海道新幹線京都駅ホームにて、ホーム上屋の電気配管の取付金具が約5m下のホームに落下した」とされているが、ホーム上の乗客等に衝突すれば負傷することはおろか、人命に関わる事態になることも考えられ、安全上大きな問題であると認識する。

従って、この事故に関して以下の通り申し入れるので早急に労使協議を行うこと。

記

1. この事故の詳細と原因を具体的に明らかにすること。
2. 会社は「お客様から落下の申告があり事象が発覚した」と発表しているが、この事

故が発覚した経緯と、このお客様への対応、また負傷者の有無を具体的に明らかにすること。

3. 会社は落下した配管金具を「素材は鉄製、大きさは約4cm×約4cm×約3cm、重さは約80g」としているが、組合ではホーム上の乗客等に衝突すれば負傷することは明らかであり、場合によっては人命に関わる事態になると認識する。会社の見解を明らかにすること。
4. 会社は、配管金具が落下する可能性があることを予測していたのか明らかにすること。
5. 落下した配管金具の過去の点検状況と直近の点検結果を明らかにすること。また、ホーム上屋に設置している設備の点検状況を明らかにすること。
6. 過去において同種事故があったのか、明らかにすること。
7. 同種事故の具体的防止策を明らかにすること。
8. このような事故が発生した場合は速やかに労働組合に説明し、協議の場を持つこと。

以上

『申第44号』橋りょう下に落下させた線路部品の調査結果に関する申し入れ

会社は5月31日「橋りょう下に落下させた線路部品の調査結果」をホームページで公表した。この調査は、東海道線天竜川橋りょう下の中州で線路部品と思われる部品が発見されたとの情報が寄せられたことを踏まえ実施したとしている。この調査及びマスコミ報道に基づき、以下の通り申し入れるので早急に労使協議を開催すること。

記

1. 会社は、天竜川橋りょう下の中州で発見された線路部品と思われる部品について、「工事請負会社が・・・取り外した線路部品をその都度回収せず橋りょう下に落下させたもの」としている。落下させたのは故意なのか過失（誤って落下させた）なのか明らかにすること。
2. 1項について、5月7日付静岡新聞夕刊は「請負業者はJR側に対し『夜間作業において誤って部品を落とすことはあるがその際は回収するようにしている・・・』と説明した」と報じている。しかし、会社調査によれば天竜川橋りょう下で発見された線路部品個数は405個である。報道と会社の調査結果は矛盾していると考える。会社の見解を明らかにすること。
3. 1項について、5月7日付静岡新聞夕刊は「『・・・不法投棄はあり得ない』と説明した」と報じている。不法投棄ではないとすれば、請負業者は落下させた部品をなぜ回収しなかったのか、明らかにすること。

4. 会社は、線路部品が発見された橋りょう数は、天竜川橋りょうを含む在来線の49橋りょうと発表している。49橋りょうの内訳を営業線ごとに明らかにすること。
 5. 会社は、今後の再発防止対策として、大きく3点を徹底することを発表している。しかしその内容は、当然にも過去から採られていなければならないもので、目新しいものではないと考える。この再発防止対策について、改めて徹底するのか、この間請負業者に徹底していなかったのか、明らかにすること。
 6. 会社は、天竜川橋りょう下で発見された線路部品個数について、5月5日に部品落下の情報があった場所で回収された297個を含む405個と発表している。297個以外はどこで発見されたのか、明らかにすること。
 7. 会社は、橋りょう下で発見された線路部品の個数は714個で、うち天竜川橋りょう下で発見された個数は405個と発表している。半数以上が天竜川橋りょう下で発見されたことになる。この理由を明らかにすること。
 8. 5月7日付静岡新聞夕刊は「・・・漁協の担当者は『鉄橋の近くには釣り人や通行人がいる。誰かが落としたのであれば、危険ならば辞めてほしい』と話している」と報道している。線路部品の落下は安全に関わる事象である。この報道について会社見解を明らかにすること。
 9. 安全に関わる事態については速やかに労働組合に説明し、協議の場を持つこと。
- 以上

会社説明

『申第42号』『申第43号』『申第42号』については、地方で議論する内容であり、本社・本部で議論する内容ではない。従って労使協議を開催する必要はない。

主なやり取り

組合：なぜ労使協議を開催しないのか。

会社：『申第42号』から『申第44号』についての内容は地方での話であり、本社・本部で議論する内容ではない。『申第43号「京都駅ホームにおける配管金具の落下に関する申し入れ」』については関西で幹事間の説明を行っている。『申第42号「東海道新幹線防音壁端部プラスチック製パネル落下に関する申し入れ」』と『申第44号「橋りょう下に落下させた線路部品の調査結果に関する申し入れ」』については、それぞれの地方で業務委員会を開催する。従って本社・本部間の労使協議を開催する必要はない。

組合：地方で議論すればよいというものではない。本部・本社間での議論が

必要だから申し入れたのである。

会社：地方で議論すれば十分である。

組合：安全に関わることである。会社は安全を軽視しているとしか思えない。

会社：そのようなことはない。地方で責任のある部署が対処し適切に行っている。

組合：申し入れについての個々の回答は口頭でできるのか。

会社：本社は詳細を知らないので詳細は回答できない。

組合：本部・本社間で労使協議を開催しないのは、会社が安全を軽視していると認識する。対立を確認する。

以 上